

日韓水産学会第1回合同シンポジウム「日本と韓国における有害有毒赤潮の発生機構，防除，ならびに海洋生物に及ぼす影響に関する研究の展開と展望」の講演者の募集

日本水産学会国際交流委員会
委員長 渡部終五

日本水産学会誌 76 巻 4 号の会告で企画案を公募した日本水産学会と韓国水産科学会の初めての合同シンポジウムですが、下記の要領で、平成 23 年度日本水産学会春季大会時に開催することとなりました。つきましては 12 月 15 日（水）を締め切り日として、日本側の講演希望者を会員から募集します。日韓水産学会の協議の関係で、募集が大変遅れましたが、会員の積極的な応募を期待致します。

記

日時：平成 23 年 3 月 27 日（日）9 時より（予定）

場所：東京海洋大学品川キャンパス

テーマ：日本と韓国における有害有毒赤潮の発生機構，防除，ならびに海洋生物に及ぼす影響に関する研究の展開と展望

企画責任者：今井一郎（北大院水）・板倉 茂（瀬戸内水研）・金 鶴均（Kim, Hak-Gyoon: 釜慶大）・李 昌圭（Lee, Chang-Kyu: 水産科学院）（韓国側は予定）

募集講演者数：日本側の 5 名程度（交通費を支給予定）

応募先：日本水産学会事務局

使用言語：英語

講演者の決定方法：日本側の講演者は応募者の中から国際交流委員会と企画責任者が相談して決める。

その他：韓国側の講演者は韓国水産科学会が決定する。

シンポジウム開催の目的：日本と韓国は隣接する水産国であり、豊かな水産物を享受する魚食の文化が津々浦々に行き渡っている。中高級魚への嗜好が高く、様々な魚介類が養殖によって生産されているが、有害有毒プランクトンによる赤潮の発生によって膨大な漁業被害が与えられており、その問題の解決が喫緊の課題といえる。日韓両国において、これまでに様々な有害赤潮原因種が発生し、赤潮発生機構について研究がなされ、その成果を基に防除に関する研究が展開されてきた。また、これらの赤潮は海洋生物に様々な影響を及ぼしてきており、それらの概要の整理も必要である。本シンポジウムでは、両国の研究に

ついて現時点における到達点を総括し、研究情報の共有を通じてこれからの研究課題や問題点を展望する。

シンポジウムの内容：有害有毒プランクトンの生理、生態、生活史、個体群動態、他生物との関係（競争、捕食、共生、寄生、感染、殺藻等）や及ぼす影響などに関わる基礎的な研究で、近々10年以内を目安に両国の中で進展の著しい研究成果を選び、発表と討論を行う。また、現場で養殖業を営む漁業者からの要望の高い赤潮の防除に関する研究について、従来のもの総括を行うと同時に新しい研究の取り組みを紹介し、今後の方向性について議論する。

以上